



市社会福祉協議会は11月27日、市民文化会館大ホールでスタッフ・出演者全員の無償ボランティアによるチャリティーコンサートを開催しました。

出演者の中瀬あやさん（伊勢市在住）と中村寛美さん（志摩市在住）は軽やかなピアノの連弾を、若林真由美さん（松阪市在住）は中低音で豊かに響くユーフォニアムの音色を観客に披露しました。

このコンサートによる収益金は、本年5月に鳥羽市を出発地点として運行を予定している「東日本復興支援ボランティアバス」の運行資金に充てられます。

東日本支援！コンサート



明治44年に相差町の菅崎沖で、駆逐艦「春雨」が座礁し、44人のかたが亡くなりましたが、町民総出の救出活動により、多くの生存者の命が救われました。殉難者の供養と先人の勇気ある行動を伝えるため、11月24日、同町で殉難百年駆逐艦春雨記念祭が開催されました。

午前中に催された供養祭に続き、午後からの記念イベントでは、神明くじら太鼓や地元のかたが出演する演劇「春雨救助伝～闇の怒濤から～」が披露され、また、歌手鳳城朋美さんによる歌謡ショーも行われました。

中村幸照町内会長は、「先人の勇気ある行動を後世に伝えていくと共に、より多くのかたに、遭難時から現在までの相差町の救出劇や海上安全への祈りを知っていただきたい」と話してくれました。

先人の想いを伝えたい



市老人クラブ連合会は11月22日、鳥羽市老人クラブリーダー研修会を開催し、各地区の会長や女性部会役員など約50名が参加しました。

研修会では、約160年前の安政東海津波の教訓を防災に役立てようと、答志、国崎、今浦の各老人会長らが伊勢湾口での津波被害や地元に残る「津波の碑」「古文書」などに関する研究発表を行いました。

この後、市防災対策室から鳥羽市の防災対策について説明を受け、自然災害の脅威と対策について話し合いました。

歴史を振り返り、防災に役立てよう



11月11日、鳥羽マリナーミナルで、元社会科教師の内田雄亮さん（亀山市在住）が神島中学校（昭和31年～35年）で教壇に立っていた際の教え子たちを写した写真を元に描いた絵画「海女になる日」の寄贈式が行われました。

寄贈された作品は、白黒が基調で当時の雰囲気を出すために全面に黄色がかかった白で下塗りしてあります。さらにその上に黒を塗って写真のスケッチをし、貝殻を使って一人ひとりの面影を彫刻するように描かれています。

鳥羽マリナーミナルへ絵画の寄贈